

富士見小学校防災マニュアル ダイジェスト版 Ver. II

自分のいのちは自分で守る

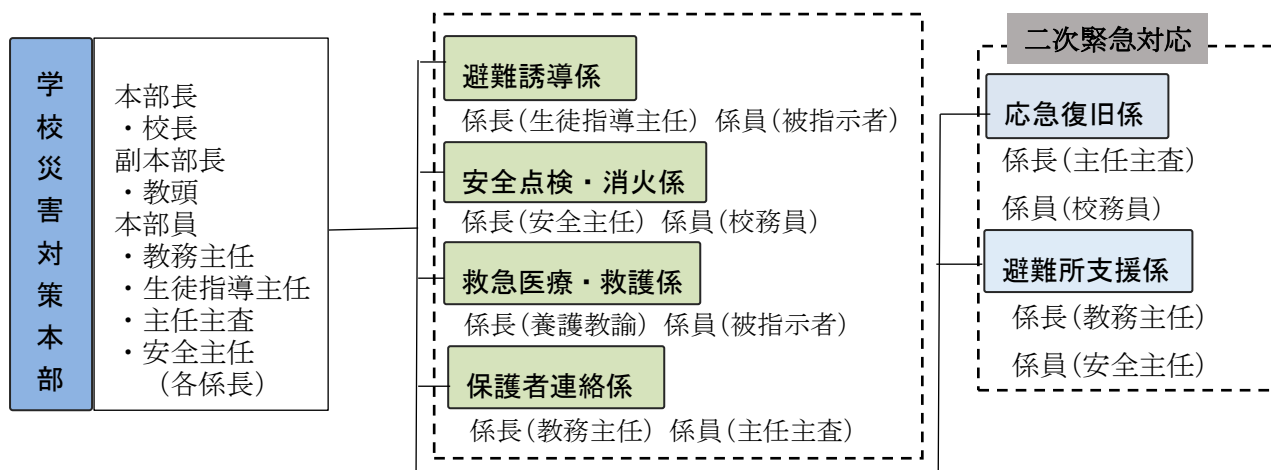
学校と学区の現状

ハザードの確認 P1

(1)	校舎	建築年：昭和 55（1980）年，同 56（1981）年建築基準前 平成 25（2013）年耐震改修済
	体育館	建築年：昭和 56（1981）年，昭和 56（1981）年建築基準後
		いずれも倒壊等の危険性は低い。ただし，増築時の校舎のつなぎ目，体育館の照明器具やバスケットゴール等は破損や落下の可能性がある。
(2)	校地	標高約 2.3m。低地の後背湿地に盛土して作られた。すぐ北側に新井田川があり，川沿いは津波が遡ることが想定されており，津波の要避難地域である。液状化による地割れや噴水・噴砂，校舎と地面との段差発生の可能性はある。土砂災害等の危険はない。最上川氾濫の場合，3～5m浸水し，3 日以上浸水が続くと想定されている。
(3)	学区	市街地東部に位置し，新井田川南部に宅地造成された新興住宅地である。児童は徒歩通学で，最も遠い「こあら地区」でも徒歩で 20 分程である。
(4)	地形	学区全域が後背湿地で，開校時は水田に囲まれていた。学校の北側に新井田川が流れる。
(5)	ハザード	酒田市，山形県等のハザードマップ（地震，土砂災害，洪水，火山），災害の歴史，近年の経験等により，想定すべきハザードは以下のとおり。
	① 地震・津波	庄内平野東縁断層帯を震源とした時の予想震度は 6 強。日本海で地震発生の場合は，津波が新井田川を遡ると想定され，川沿いは要避難地域に指定されている。
	②液状化	液状化の危険性は高い。（校舎と地面の段差，地割れ，噴水・噴砂の可能性あり。）
	③土砂災害	学区の大部分は土砂災害の危険性はない。
	④洪水	洪水ハザードマップでは，最上川および新井田川の氾濫の際には，いずれも学区全域が浸水すると想定されている。最上川氾濫の場合は，3～5mの深さになり，学区全域で浸水が 3 日以上続く。新井田川氾濫の場合は，0.5～3mの深さになり，新井田川沿いは浸食される。通学路は，富士見町 1 丁目の地下道や用水路付近の道路は，強い雨が降ると冠水する可能性がある。校舎は，酒田六中とともに洪水時緊急避難場所に指定されている。
	⑤地吹雪	通学路のうち，歩行者専用である上安橋は，強風の際迂回が必要となる。
	その他	特になし
(6)	校外	学年行事等で訪問する場所で，特に想定すべきハザードは以下のとおり。
	① 津波	加茂海岸（2 年生），西浜海岸（4 年），由良海岸（5 年），松島海岸（6 年）
	②その他	クマ及びスズメバチ遭遇…松山・平田地区（3 年），金峰山（5 年） 雪崩…平田ピクニックランド（1 年）
(7)	避難場所・避難所	・避難場所（災害時に市民が自発的に避難する場所）本校グラウンド 収容 3,000 人 ・避難所（住居を失った者等を収容する避難施設）本校体育館 収容 350 人 ・津波避難ビル指定 ・津波時の一時避難場所指定 ・洪水時の緊急避難場所指定
(8)	自主防災組織等	本校を市避難所として使用する場合の主な役員は次のとおり。富士見学区自主防災組織（会長 土井賢一氏 部長 佐藤恒夫氏 副部長 佐藤興司氏・渋谷環氏）

学校災害対策本部と業務内容

教職員確認事項 P8～



係 名	業 務 内 容	主な必要物品
本 部	○校内放送等による連絡や指示 ○応急（緊急）対応の決定 ○各係との連絡調整 ○教育委員会、酒田市災害対策本部、PTA等との連絡調整・報告 ○情報収集（気象、災害、交通情報等） ○非常持出品の搬出 ○報道機関との連絡・対応	拡声器、メガホン ホイッスル 無線機（トランシーバー） ラジオ 懐中電灯 乾電池（各種） 引き渡しカード 在校児童生徒確認表
避難誘導係	○安全な避難経路を確認しての避難誘導 ○安否確認（負傷状況の把握）と本部への報告 ○安否確認できない児童生徒の搜索	拡声器、メガホン ホイッスル 強力ライト
安全点検・消火係	○火災が発生した場合の初期消火 ○被害状況の確認 ○校舎、その他施設の被害程度の調査と本部への報告 ○初期消火の必要がない場合は、避難誘導、救護等の他係を支援。	消火器 防煙マスク 安全点検表
救急医療係	○緊急医薬品、担架の持ち出し（AED含む） ○負傷者の応急手当 ○救護所の設営（保健室が使えない状況を想定） ○医療機関への搬送・連絡	医薬品 担架・AED 毛布 簡易テント、シート
救護係	○負傷者の救出、救命 ○負傷者、危険箇所等の通報 ○「心のケア」の実施	担架 毛布 バール、スコップ等
保護者連絡係	○一斉メール配信、電話連絡網での対応 ○防災無線、地域コミュニティを活用しての連絡 ○引き渡し対応の事前の取り決め ○引き渡し場所の指定 ○児童生徒の引き渡し作業（カード利用）	引き渡しカード
応急復旧係	○被害状況の把握 ○ライフライン被害状況の把握と本部への報告 ○危険箇所の応急処置 ○「立入禁止」「使用禁止」等の表示	トラロープ 各種表示 各種工具
避難所支援係	○酒田市災害対策本部と連携しての支援 ○避難所開設がない場合は、避難誘導、救護等の他係を支援する。	放送機材、カラーコーン、各種表示、腕章、ベスト

学校グラウンド以外の非難場所

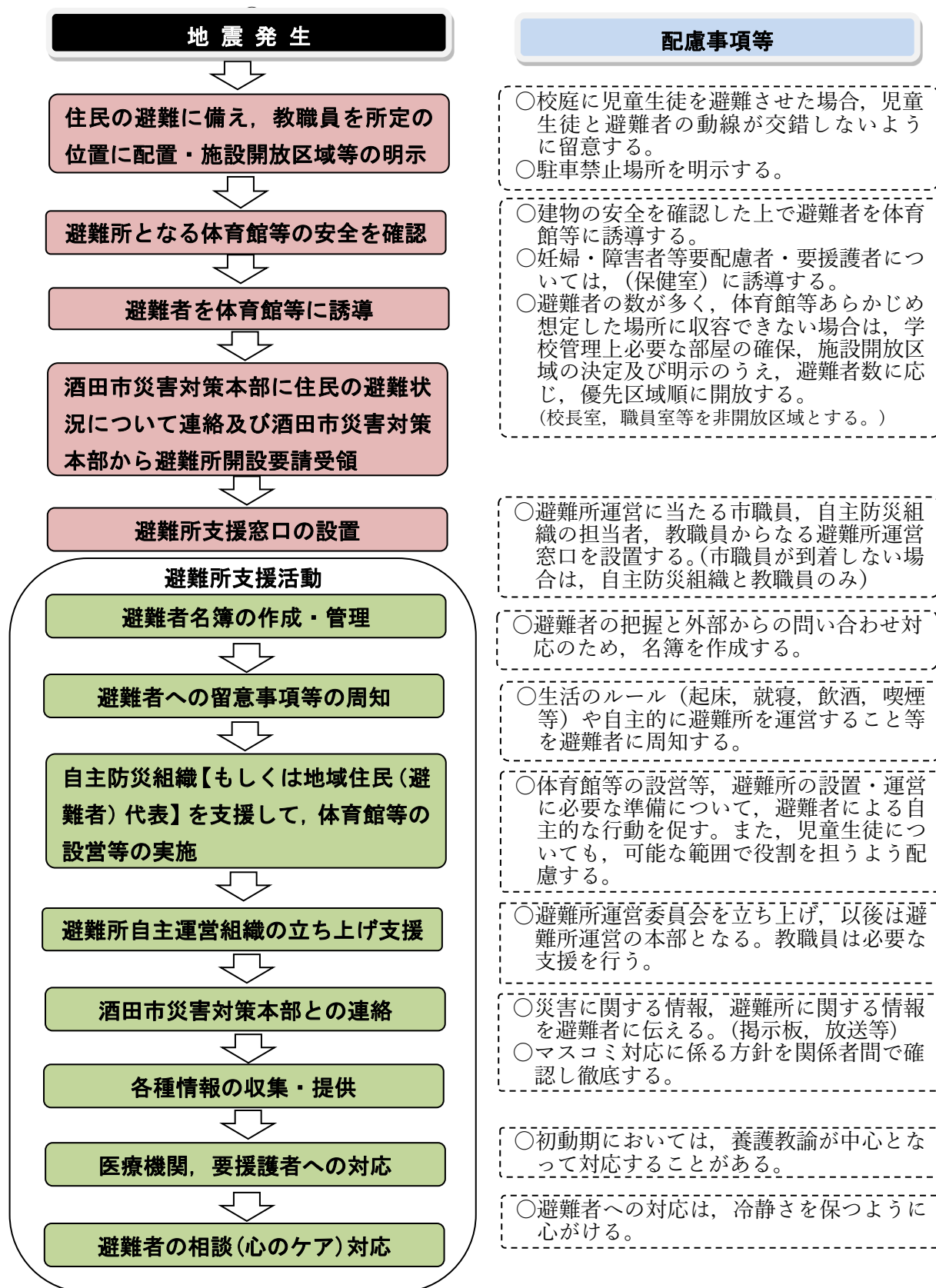
第1避難場所	学校体育館	第2避難場所	学校校舎3階	第3避難場所	富士見東公園
--------	-------	--------	--------	--------	--------

学校が避難所となる際の対応

教職員確認事項 P44～

学校の避難所設置・運営にかかる協力（発災初期段階の例）

※学校に教職員等がいる時間帯において大地震が発生し、市からの避難所開設要請の前に住民が避難してきた場合を想定



あわてずに行動！ 地震 こんな時どうする？

学校にいるとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
 - 机やテーブルの下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
 - 体育館など広い場所にいたら、中央付近にしゃがんで、揺れがおさまるのを待ちます。
- ### 2 避難する
- 放送や先生の指示にしたがって避難します。落ちている物や倒れている物に気をつけ、「**お・は・し・も**」の約束を守って避難します。
 - 指示があるまで、その場で落ち着いて待ちます。

登下校中のとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
 - 建物（かわら）、ブロックべい、門柱、自動販売機からはなれ、安全な場所に避難します。
 - かばんやバッグなどで頭をかくし、しゃがんで揺れがおさまるのを待ちます。
- ### 2 避難する
- 近くに大人がいるときは、大人の人に助けを求めて一緒に行動します。
 - 学校が近いときは学校へ、家が近いときは家へ避難します。
 - 車には、十分気をつけながら移動します。

家やほかの場所にいるとき

1 自分の身を守る

- 食器や本棚、蛍光灯などが「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 机やテーブルなど頭をかくせる物の下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
- あわてて火を消しに行ったり、外には飛び出したりしません。
- 揺れがおさまったら窓を開けます。

2 避難する

- うちの人といっしょに避難所へ避難します。建物（かわら）、ブロックべい、門柱、車などに気をつけて移動します。
- 家の人がいないときは、近所の人といっしょに避難します。

学校の対応について

- 酒田市が震度4以下の場合には、原則として通常通りの日課です。状況によっては、休校や一斉下校とする場合があります。
- 酒田市が震度5弱以上の場合には全員を学校に待機させます。保護者の皆さんも、自身の安全確保を第一に行動、危険な状況を回避してください。安全が確認できましたら、お子さんを迎えに来てください。
- 休校、登校時間を遅らせる、下校時間を早める場合は、安全安心メール等で連絡します。連絡がなくとも、危険な状況と判断した場合は自宅で待機させてください。

他にもいろいろ... 災害 備えあれば憂いなし

